



北上市×さくらホール feat.ツガワの挑戦… vol.2

グループ・インタビュー「地域包括支援センター 本通り」編

2024.2.25 地域包括支援センター 本通り 事務所

ホールに来づらい高齢者も 文化芸術の楽しさを みんなで享受できるまちへ

地域の高齢者のお悩みに寄り添う「地域包括支援センター」

少子高齢化に加え、人口減少や核家族化も進み、ひとり暮らしの高齢者の方や、高齢者の方のみの世帯が増えています。さらにライフスタイルや働き方も多様に変化するなかで地域とのつながりも希薄になり、孤立化が進む一面も。

そうしたなかで年を重ねても住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられるように、高齢者の方やそのご家族のお悩みに寄り添い、さまざまな支援を行っているのが「地域包括支援センター」です。



北上市と「さくらホール feat.ツガワ」（以下「さくらホール」）が連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して、ふだんは「ホールに来づらい」方たちやその関係者に話をうかがうグループ・インタビュー。第2回は「地域包括支援センター」で地域の高齢者の方のために働くスタッフのみなさんに、「ホールに来づらい高齢者の方にも文化芸術を届けるために必要なことは何か」について話をうかがいました。

訪れたのは、「地域包括支援センター 本通り」です。北上市では、市内を6つのエリアに分け、各地区にセンターを配置。「本通り」は、マチナカに位置する黒沢尻東・黒沢尻西地区を担当されています。



「ロバ隊長」から学ぶ「認知症サポーター」の取り組み

今回話をうかがったのは、窓口の対応や高齢者の方の日々の暮らしを楽しくするサークル活動やワークショップ、地域の見守り等、介護保険では対応できないサービスなどの情報提供を行っている「生活支援コーディネーター」、主任ケアマネージャーも務め現在はプランナーとして介護保険に関わる業務の全般を担う「介護支援専門員」、高齢者の方の介護や権利擁護・虐待の相談などに対応する「社会福祉士」の3名の方々です。

最初にご挨拶をしたとき気になったのが、みなさんがネームホルダーにつけている可愛らしいロバのキャラクター。こちらは「認知症サポーターキャラバン」のマスコットキャラクターだそう。



▲「ロバ隊長」は認知症サポーターキャラバンのマスコットキャラクター

さくらホールにもときどき認知症の方が迷って来られるケースがあるため、まずは認知症サポーターの取り組みから話をうかがうことに。

認知症サポーターとは、認知症のことを正しく理解し、偏見を持たず認知症の方やご家族に対してあたたかく見守り応援しながら、認知症になっても安心して暮らせる地域をつくろうと取り組んでいる人たちのことで、「認知症サポーター養成講座」を受講すると誰もがなれるそう。もちろん「地域包括支援センター 本通り」でも認知症の方とそのご家族の支援を行っており、「さくらホールさんもぜひ！」とおすすめいただきました。

認知症サポーター養成講座は各自治体で開催しており、北上市でも一般の方だけでなく小学校や企業単位でも受講されているようで、高齢化がさらに進む今後を見据え、重要な取り組みだと改めて認識を深めたひとときでした。



避けては通れない高齢者の「足」問題

また、今回のグループ・インタビューの目的でもある「ホールに来づらい高齢者の方にも文化芸術を届ける」ための課題として、みなさんが口を揃えたのが「足=交通」の問題です。

以前もとあるイベントがあり、高齢者の方が参加したいと思ったそうですがクルマもなく、その日は休日でバスも運行しておらず、イベントに参加することをあきらめたという話を聞いたことがあるそう。

「遠くの方だと足がないと参加したくてもできない」「タクシーチケットもあるけど、あっという間に消える」「大きなイベントがある日は土日もあるといい」などなど、ふだんから地域の高齢者の方のさまざまなお悩みに応えたり、日々の暮らしのなかで耳にしたりするリアルな声を教えていただきました。



さくらホールでも以前は公演時の移動支援として「北上駅からタクシーで」という取り組みを行っていましたが、「駅よりも各地域の交流センターがいいのでは」といった意見もいただき、改めて高齢者の方の「足」の問題は重要と痛感。一方で、以前は「歌舞伎などを観に東京にまで行っていた方が高齢になったため、今はさくらホールに行って楽しんでいるそうですよ」という情報もいただき、うれしくなると同時にその方がさらに年齢を重ね移動が難しくなったときのことを考えると、「すべての人に文化芸術を届ける」という今回の取り組みの重要性も改めて実感しました。



また、交通手段の確保が難しいのであれば、例えば「さくらホール・チャンネル」のようなものをつくり、高齢者向けの講座やワークショップなどを配信するというアイデアも。3名の方からは「高齢者はテレビが好き」「ご自宅に訪問すると、みなさんテレビを観ているからいいかも」といった肯定的な意見とともに、「高齢者は機械操作を苦手とする方もいるので、チャンネルを映るように設定してあげるなどのサポートが必要かも」といった意見も。

さらに、今回の取り組みの取材に訪れた「北上ケーブルテレビ」の方は「北上ケーブルテレビは北上市内の高齢者の方が多く視聴されているので、特番として放送する方法も」といったアイデアも飛び出すなど、さまざまな視点で高齢者の方の「足」問題について考えることができ、貴重な時間となりました。

「アウトリーチ」を地域に暮らす高齢者のもとへ

さくらホールではアーティストと一緒に学校や病院・福祉施設などに出かけ、ふだん「ホールに来づらい」方たちに本物の文化芸術を鑑賞する楽しさを届ける「アウトリーチ」という取り組みも行っています。その話題になると、みなさんはその取り組みを知らなかったようで、興味津々の様子。



特に、地域づくりに興味があり北上市社会福祉協議会が取り組む「福祉協力員」の活動もされている方から、「ふれあいデイサービスとつながれたら面白いのではないか」とさっそく具体的なアイデアも。「ふれあいデイサービス」とは福祉協力員の活動のひとつとして、地域に暮らす高齢者の方を対象に、社会参加や介護予防のための趣味活動やレクリエーション活動などを行う取り組みです。参加人数が少ないことを気にされていましたが、「アウトリーチ」は人数の多い少ないに関わらず、ご希望の施設などにうかがうと知って喜んでいました。今後につながるかも……。

高齢者に向けた情報発信。一歩先ゆく「本通り」の取り組み

また、「地域包括支援センター」では高齢者の方の日々の暮らしを楽しくするサークル活動やいきいき体操など地域で集える場の情報提供も行っています。その狙いはイキイキとした暮らしを応援することはもちろん、サークル活動や生き生き体操など地域で集える場に参加することで地域とのつながりを育み、孤立化を予防するなど、介護保険などではカバーしきれない地域のつながりづくりにも貢献していくためだそう。

その取り組みとして「地域包括支援センター 本通り」では、地域で開催される高齢者におすすめのサークル活動やいきいき体操など地域で集える場を「地域資源」として一覧で見られるシートをつくり、この4月から居宅介護事業所のケアマネージャーさんや地域の高齢者の方に向けて情報発信する予定です。さらに、さくらホールで開催される講座やワークショップもくまなくチェックし、高齢者におすすめの企画をピックアップし、地域の交流センターに紹介しています。



▲さくらホールや交流センターなどで開催される高齢者向けのサークル活動やいきいき体操など地域で集える場が一覧で見られるように工夫した「地域包括支援センター 本通り」のシート

この取り組みには、さくらホールの PR もしてくださっていると知りスタッフも感動するとともに、「地域に暮らす高齢者の方たちに向けた情報発信ができていなかった」という気づきも。さらに担当者さんからは「さくらホールで開催している講座やワークショップには高齢者におすすめの素晴らしいものがあるので、その先生を交流センターにも紹介してあげたい。いろいろな場所で開催されると、高齢者の方も参加しやすくなるのでは」というご相談も。もちろん、「地域で活躍する先生たちの教える場が広がるのは素晴らしいこと」とさくらホールスタッフも交流センターへの紹介を後押しするなど、前向きなアイデアが次々に飛び出し、和気あいあいとした雰囲気のままグループ・インタビューも終了となりました。



北上市とさくらホールが連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して取り組む今回のプロジェクト。「地域包括支援センター 本通り」の方たちも「最初は何を聞かれるのか……」という不安があったそうですが、グループ・インタビューが進むにつれ、それぞれの活動の理解が深まり、「高齢者の方たちのいきいきとした暮らしを応援」という点で両者の活動がリンクする部分も多く、終わってみれば「一緒がんばりましょう」と連携の輪が強まる有意義な時間となりました。ご対応いただいた「地域包括支援センター 本通り」のみなさん、お忙しいなか貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

◇北上市の「地域包括支援センター」の取り組みはこちら！

<https://www.city.kitakami.iwate.jp/life/soshikikarasagasu/chojukaigoka/hokatsushiengakari/3/4566.html>